

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	TOFROM YAESU	階数	地上51F 地下4F
建設地	東京都中央区八重洲一丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	25,602 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年9月30日
敷地面積	11,886 m ²	作成者	株式会社大林組
建築面積	9,614 m ²	確認日	2024年9月30日
延床面積	237,089 m ²	確認者	株式会社大林組



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 4.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.4

LR のスコア = 4.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO ₂ 排出量の低減に努めている。また、敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行うなど、環境に配慮している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・ 遮音/断熱性能のよいサッシを使用している。 ・ 自動制御ブラインドを採用し、光・視環境に配慮している。	・ 将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。 ・ 高寿命な材料を使用し、建物の耐久性に配慮している。	・ 中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。 ・ 建物利用者が自然に親しめるように植物銘板を設置し、良好な緑地環境に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・ 外皮性能を高め、効率のよい空調機器・全面的LED照明の導入など、高効率な設備システムを導入することで省エネルギー化を図っている。	・ 主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 ・ リサイクル材を積極的に使用しており、非再生資源の使用量の削減を図っている。	・ 適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される